Dance Dance Dance

ダンス ダンス ダンス

WDSF世界ダンススポーツ選手権 ユース・スタンダード2016

第11回オールジャパンジュニア ダンススポーツカップ2016 in 群馬

アンチ・ドーピングを考える

公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2016 No.81
秋

勝てるドレス チョイス

スポンサー　by　チョイス
ＪＤＳＦスタンダードチャンピオン
オレクシー・グザー&太田吏圭子 組

大好評　BD Dance シューズ

世界中のトップ選手も愛用している有名なシューズブランド
耐久性に優れ、足に馴染むのが早く履き易さ抜群!!

JDSF会員様 特別モニター価格

※会員証の提示をお願い致します。

10月9日(日)～11月6日(日)

メンズシューズ ￥ 8,000- ～(税別)
レディースシューズ ￥ 7,000- ～(税別)

BD DANCE® 日本総代理店

CHOICE LONDON JAPAN

チョイスダンスショップ

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-26-7
城北ビル7階

TEL:03-3980-5559

【営業時間】11:00-19:00
年中無休(年末年始を除く)

副会長・PD本部長就任に当たって

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）
副会長　**田邊　重光**

このたび、JDSFの副会長ならびにPD（プレミア　ディビジョン）本部長を拝命いたしました。

私はJDSFがこれまでダンスを純粋なスポーツとして発展させ、公正なジャッジシステムを開発し、若い選手の育成に努力しつつ国民体育大会やオリンピック参加を目指す強い姿勢を貫いてきたことに敬服しておりました。

実際に、東アジア大会、アジア大会、ワールドゲームズ、等オリンピック関連総合競技大会へのダンススポーツ競技の参加を実現させ、JOC（日本オリンピック委員会）日本代表選手団の中にダンススポーツ選手が含まれるようになるなど、私たちのダンス界に光と希望を与えてくれました。そればかりか、昨今ではJDSFが公益法人として、ダンス人口の高齢化に対応すべく様々な施策に挑戦し、ダンス教室の生き残りのための方策まで検討している姿勢に心を打たれました。

私は、これまで長らくJBDF（公益財団法人日本ボールルームダンス連盟）の役員として、また昨年４月からはJBDF会長を務める中で、日本のダンスの発展のためにJDSFとともにアマプロみなで力を合わせて前進したい、と心に決めておりました。しかしながら今までの様々な因習もあり、この理念がまっとうできないことから、志半ばで辞任したのであります。そしてダンス界から去るつもりでいたところ、JDSFの皆様から温かい励ましと強い期待のお言葉をいただき、もう一度、私の余生をダンス界のためにかけて、少しでも皆様のお役に立ちたいと思いました。特に、６月の総会では、私の副会長就任について、盛大な拍手をもって迎えていただいた時、全国の皆様の温かいお心を感じ、涙がとまらない思いでした。

明るく公明で民主的な運営を誇るJDSFが、PDを含めて公正で客観的なジャッジ基準で競技会を運営することは、若いPD選手諸君にとって本当に励みになるものと確信しております。私はPD本部長として、PD部門に於いても権威主義ではなく、公明で民主的な運営を実現させ、将来につなげたいと考えております。

このような優雅で美しく素晴らしいダンスが、オリンピックまた国民体育大会の正式種目に取り入れられていないのが残念でなりません。私は、皆様と共に全力で努力し、これを実現することによって、多くの若い方々をダンスに引き寄せる事が出来、将来の日本のダンス界全体の発展に寄与するものと考えております。

JDSFの皆様とともにすばらしいダンス界を作り上げたいと考えておりますので、宜しくご支援の程をお願い申し上げます。

本年度『WDSF-PD 世界選手権マスタークラス ラテン』で、
JDSF-PD登録選手の岸田肇・岡田祐子組がマスタークラスⅠにて３位、
マスタークラスⅡにて２位入賞しました！

PD部門説明会＆本部会議開催

本年度の理事会、代表者正会員会議、総会を経て、PD本部及びボールルームダンス本部（BR本部）が立ち上がり、選手等関係者への説明会とPD部門本部会議及び全体会議が開催されました。

出席の役員

◆JDSF-PD部門説明会

７月14日（木）、五反田文化会館において役員と選手関係者及び関心のある方々約70名が参加しPD部門の説明会が開催されました。

冒頭、山田淳専務理事からJDSFの概要とPD関連部門の本格立ち上げの背景と今後の展望について説明があり、中道俊之普及本部長から非競技系ダンスの普及施策と海外事情について説明と報告がありました。質疑応答では仲野巽PD副本部長から、できるだけ早く多くの選手にPD部門に登録して頂きたい旨の要請がありました。なお、PDJ委員会の機能、権限等は、そのまま来年１月１日をもってPD（Premiere Division）部門本部に移行する等の解説がありました。

会議

質疑応答

◆PD部門本部会議（第１回）開催

８月２日（火）、東京有明のJDSF本部DTC（ダンススポーツトレーニングセンター）で田邊重光JDSF副会長はじめPD部門関係の役員が出席し開催されました。PD部門設立の目的は「JDSF-PDの基本方針に沿って、WDSF-PDにつながる我国のPD競技体系の確立と普及を目指す。そのために、PD本部・各部への本部方針の展開と、各部の活動の支援、部門間の調整と連携促進を行う。また、BR本部との連携を行う」との確認がなされました。そしてブロックランキング制度、全日本PD選手権のランキングポイントなどを含めた競技ルール（公認競技体系、ランキングポイント競技会、競技会名称の統一など）の検討やBR本部資格管理部と合同で、PD審判資格制度の制定及び管理の検討など話合われました。

また、2016年度WDSF-PD世界選手権への各日本代表選手の派遣が決まりました。

- 9/17-18＝世界選手権PD Master Class Ⅰ、Master Class Ⅱ（WDSF-PD World Championship Bertrange-Luxembourg） 岸田肇・岡田祐子組
- 10/5＝世界PD10ダンス選手権（WDSF-PD World Championship Leipzig-Germany）山本武志・木嶋友美組
- 11/11＝世界PDスタンダード選手権（WDSF-PD World Championship Aarhus-Denmark）
  山嵜圭太・石本美奈子組、山本武志・木嶋友美組
- 12/3＝世界PDラテン選手権（WDSF-PD World Championship Moscow-Russian Federation）
  岸田肇・岡田祐子組

◆JDSF-PD部門本部全体会議

PD本部会議に続きゼネラル部門*が加わり、PD本部事務局サポーター兼組織委員長の中道俊之理事の司会で全体会議が開催されました。PD部門と従来のJDSFゼネラル部門田邊重光JDSF副会長（PD本部長兼 BR本部長代行）の挨拶の後、山田淳専務理事からPD設立の趣旨／JDSFの基本方針とPDへの期待が語られ、玉置朝啓PD本部副本部長よりPD本部の役割と基本方針について、また、BR本部の役割と基本方針について浅野勉BR副本部長から説明がありました。さらに各ブロックの状況報告や各部の状況、アスリート委員会（PDA）の報告が行われました。

その後は、顔合わせを兼ね懇親会が行われました。

＊PD部門の発足に伴い、従来の「アマチュア部門」はゼネラル部門と呼称変更しました。

◆全日本PD選手権開催

10月９日に東京体育館において開催される三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権において全日本PD選手権が開催され、招待選手は山本武志・木嶋友美組（St、La）及びオレクシーグザー・太田吏圭子組（St）に決まりました。

アンチ・ドーピングを考える

アンチ・ドーピング委員会委員長　古瀬　精一

今回リオ開幕前に、注目されたのはロシアの国家ぐるみのドーピングでした。ロシアの陸上競技選手の出場が拒否され、最初は単なるスポーツ界のドーピングスキャンダルかと思いきや、ロシアの組織ぐるみのドーピングが暴露されるにいたり、そのカギを握る人物が亡くなったり、内部告白をした選手が亡命したりとスパイ劇さながらのスペクタクルとなってしまいました。

他人のケンカと対岸の火事は大きいほど楽しいとは、言われますが、2020年は東京オリンピックです。決して他人事で片付けるわけにはいかなくなることでしょう。一度、ここでドーピングについて、過去を見据えて、クリーンなスポーツとは何なのか、ダンススポーツのみならずアンチ・ドーピングについて考えるきっかけになれば幸いです。

（1）ロシアの「ドーピング文化」

【陸上競技 未だに破られない1980年代に樹立された世界記録】

（ウィキペディア国際陸上競技連盟から）

種目	選手名	国籍	記録	樹立年月日
男子円盤投げ	ユルゲン・シュルト	東ドイツ	74m 08	1986年6月6日
男子ハンマー投げ	ユーリー・セディフ	ソビエト連邦	86m 74	1986年8月30日
女子100m	フローレンス・ジョイナー	アメリカ	10秒 49	1988年7月16日
女子200m	フローレンス・ジョイナー	アメリカ	21秒 34	1988年9月29日
女子400m	マリタ・コッホ	東ドイツ	47秒 60	1985年6月10日
女子800m	ヤルミラ・クロトフビロワ	チェコスロバキア	1分53秒 28	1983年7月26日
女子4×400mリレー	タチアナ・レドフスカヤ オルガ・ナザロワ マリヤ・ビニギナ オルガ・ブリズギナ	ソビエト連邦	3分15秒 17	1988年10月1日
女子100mハードル	ヨルダンカ・ドンコワ	ブルガリア	12秒 21	1988年8月20日
女子走り高跳び	ステフカ・コスタディノワ	ブルガリア	2m 09	1987年8月30日
女子走り幅跳び	ガリナ・チスチャコワ	ソビエト連邦	7m 52	1988年6月11日
女子砲丸投げ	ナタリア・リソフスカヤ	ソビエト連邦	22m 63	1987年6月7日
女子円盤投げ	ガブリエ ラ・ラインシュ	東ドイツ	76m 80	1988年7月29日
女子七種競技	ジャッキー・ジョイナー・カーシー	アメリカ	7291点	1988年9月23日～9月24日
			100mハードル（12秒 6 9）	
			走り高跳び（1m 93）	
			砲丸投げ（16m 00）	
			200m（22秒 30）	
			走り幅跳び（7m 27）	
			やり投げ（50m 08）	
			800m（2分08秒 51）	

（やり投げ旧規格を除く）

リオ・オリンピックでのトラック競技での世界新記録は、なんと言っても男子400m競争、南アフリカ、バン・ニーキルク選手の43秒03、1999年マイケル・ジョンソン選手の記録を0.15秒上回るものです。ものすごい記録なのですが、ウサイン・ボルト選手の陰に隠れてすっかり目立たなくなってしまいました。バン・ニーキルク選手は短期間に着実に記録を伸ばしてきた選手でもあります。

陸上競技では、1980年代に世界記録が作られ、未だに破られていない記録が多数あります。左表のとおりです。この20数年間、競技場トラックやフィールドの材質は記録が出やすいものに変わり、ハイテク技術で作られたシューズやユニフォーム、トレーニング技術が進歩したにもかかわらず、不思議なことです。しかも、記録保持者は旧ソビエト、東ドイツ、東欧諸国とアメリカという国に限られていることです。

1980年代は東西冷戦の最中であり、ソビエト、東ドイツは特に、国威発揚のため国家を挙げて選手を育成し、世界選手権、オリンピックでのメダル獲得に力を入れていました。

メダル獲得数は、国のGDPに比例するといわれていますが、東ドイツの夏冬第１回オリンピックからの累計メダル獲得個数は519個、西ドイツ243個です。日本のそれは、今回リオを合わせて484個です。東ドイツの経済規模と日本の経済規模を比較することは難しいですが、この数字は、旧ソビエト1204個と比較しても多いと思う数字です。

当然メダルの獲得のためには、才能ある選手の発掘は当然のこととして、記録伸ばす合理的な手段としてドーピングが用いられていたことは過去の選手の告白から明白です。それは国家的規模で行われました。同時にドーピング検査の精度をはるかに上回る隠蔽技術も開発されましたので、発覚しなかっただけでした。また、世の中もドーピングに対して今ほど敏感ではありませんでした。

ソチ五輪での検体すり替え手口

（朝日新聞から引用）

【ドーピング検査で使用される検体保管容器】

（一度ふたをねじ込むと逆回転しない構造）

（朝日新聞 JADA提供）

この国では、記録をつくるには、競技に勝利するには、ドーピングが必須となり、選手も、コーチも、大会運営者も、スポーツの勝利にはドーピングありきという、いわば「ドーピング文化」を生み出すに至りました。

その後、東ドイツ、ソビエト連邦

は崩壊し、「ドーピング文化」と、それを支えた「技術者」は、ロシアに引き継がれたといわれています。

また、組織ぐるみのドーピングは、今回暴露されたソチオリンピックでの「ねずみの穴」に見られるように、選手ではなく、選手を取り巻く人たち「競技者支援要員」が行ったドーピング防止違反行為ということにもなります。「ドーピング文化」を承継した組織の力は、今も生き残っているのでしょうか。

このすり替え手口で、注目されることは、一度ふたを封印したら、ふたが逆回転しない容器を破壊せずに開封し、疑わしい尿検体をクリーンな検体にすり替えたということです。一説には軍事技術を応用したとされていますが、いったいどうした技術なのか、封印したこの容器を壊さずに開封することの、今後の調査を注目したいと思います。

(2) アメリカの「商業至上主義」とドーピング

1984年ロサンゼルスオリンピックでの成功は、メディアへのオリンピック放映権を高騰させ、各競技種目は広告宣伝の媒体となり、プロ選手の出場に拍車がかかりました。トップ選手には企業スポンサーがつき、使用するユニファームへの広告、用具、サプリメントに注目が集まり、トップ選手ブランドは、企業の販売促進の必需品となりました。トップ選手は、スポンサーフィーを得るために企業との契約継続が必須となり、そのためには以前にも増して成績維持する必要性が出てきました。「商業至上主義」とドーピングが融合のはじまりです。

アメリカ野球大リーグの最多ホームラン記録保持者バリー・ボンズは、体が巨大化し始めたときからホームランを量産し始めました。2001年年間最多本塁打大リーグ記録73本、通算762本の本塁打大リーグ記録など輝かしい記録を打ち立てました。このころの、サプリメント事業会社バルコ社との疑惑と親密な関係は有名なことです。本人の打撃技術が一流なのは万人が認めることですが、本人は、これらの記録がドーピングによる体の巨大化にあることの関係を、否定していません。

世界の新しい医薬品のほとんどは、アメリカ企業が何らかの形でかかわり開発されています。製薬企業やサプリメント製造企業は、政治経済界のいたるところにロビィー活動を行い、スポーツ界も例外ではありません。ここには利権と、お金の流れが存在していることはいうまでもありません。

とはいっても、イチローのように、ドーピングとは全く無縁で、偉大な記録を作った選手がいることも事実です。

(3)「ドーピング文化」VS「商業至上主義」のドーピング

ロシアの「ドーピング文化」VSアメリカの「商業至上主義」のドーピング。今回のリオオリンピック・パラリンピックでは、ロシアがバッシングを浴びましたが、これで終わりではなく、事のはじまりと談じるのは、私の考えすぎでしょうか。

(4) サプリメントに成分表示のない禁止物質が入っている？

平成27年度の日本国内のドーピング検査違反で注目するのは、サプリメントのパッケージの成分表に記載していない禁止物質により、違反者が出たことです。

JADA（日本アンチ・ドーピング機構）は、ドーピング検査違反者の名前を下表のように公開しております。注目すべきは、ボディビルの小野選手と松尾選手のオキシロフリンです。サプリメント「SP250」を摂取したところ、違反となってしまいました。パッケージの表示には、興奮剤として禁止されているオキシロフリンが入っていることは記載されず、「競技によってはドーピング検査違反となる可能性がある――」と記載されていただけでした。注目すべきことは、このサプリメントの入手経路が、両者ともボディビル・フィットネス連盟の公式通販サイトからであったことです。笑い話のようですが事実のようです。

また、氏名は公表されていませんが、同じ連盟で、規程24項違反により資格停止４年の制裁を受けた人がいます。詳細は不明ですが、規定24項には競技者及びサポートスタッフの役割が記載されています。検査は実施されていないようですから選手ではないようです。連盟役員として、選手のドーピングを幇助教唆したのではないでしょうか。この辺りは、私たち、競技団体にかかわるものとして十分に注意しなくてはならないことです。

(5) 血液検査と血液ドーピング

ドーピング検査は、現在、主として90cc以上の尿を採取することですが、今後徐々に血液検査の実施が増えていきます。血液内の禁止物質を検出することも当然として、選手の血液データを記録し、組成の変化により異常を検知していくことも目的としています。

血液ドーピングとは、自分の血液を、いったん採取し保存し、競技会の直前に、自分の血管に戻す。そうすれば赤

【平成27年度　ドーピング防止規律パネル決定報告一覧】（JADAホームページから引用）

番号	決定期日	競技種目	競技者氏名	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2015-001	2015年12月8日	ソフトボール		オキシロフリン［Oxilofrine］ β-メチルフェネチルアミン［β-Methylphenethylamine］	・競技成績の失効 ・資格停止：８ヶ月（2015年7月7日～）
2015-002	2015年11月12日	パワーリフティング	西村　義人	ドロスタノロン［drostanolone］	・競技成績の失効 ・資格停止：4年間（2015年7月30日～）
2015-004	2015年10月27日	ボディビル		デヒドロクロロメチルテストステロン［dehydrochlormethyl-testosterone］	・資格停止：8年間（2015年8月21日～）
2015-005	2015年11月17日	陸上競技		メチルエフェドリン［methylephedrine］	・競技成績の失効 ・資格停止：8ヶ月間（2015年10月6日～）
2015-006	2016年3月4日	ボディビル		日本アンチ・ドーピング規程24.項の違反	・資格停止：4年間（2015年12月4日～）
2015-007	2015年12月8日	ボディビル	松尾　泰宏	オキシロフリン［Oxilofrine］	・競技成績の失効 ・資格停止：2年間（2015年11月2日～）
2015-008	2016年1月7日	パワーリフティング	小谷　紀明	メタンジエノン［metandienone］	・競技成績の失効 ・資格停止：4年間（2015年11月2日～）
2015-009	2016年3月16日	ボディビル	小田　敏郎	オキシロフリン［Oxilofrine］	・競技成績の失効 ・資格停止：2年間（2015年11月5日～）

血球が増加し、筋肉への酸素供給能力が飛躍的に向上し、持久力が高まり競技力が向上します。異物ではない自己血液ですし、従前の尿検査では検知することはできません。ただし、同じ血管に、急に血液がおおくなるので、血管がつまり死に至るケースがあります。

持久力が勝負を分ける自転車レース、特に勝利者は英雄とされるツール・ド・フランスでは悲劇が繰り返されています。勝者の賞賛と賞金の代償は、死。それでも英雄を目指す。これがツール・ド・フランスの魔力なのでしょうか。

総検査数の５％は、血液検査を行うというWADA（世界アンチ・ドーピング機構）の方針ですから、まもなくJDSFでも実施されることでしょう。採血自体は、競技終了安静２時間後通常の採血であり、通常の病院の採血とまったく同じです。

（6）遺伝子ドーピング

現在、個人の遺伝子の解析は、民間レベルで簡単に行われております。一番の目的は、遺伝子が原因で発生する難病の克服、そして、その疾病発生を予測するのが次ぎの目的です。その副産物で、自分の体は、どのようなルーツで出来上がってきたのか、また、自分が異性になったときは、どのような体型になるのか、どのような成長終末をたどるのか、わかるようになってきました。自分の遺伝子は、将来どのような病気リスクがあるのかの判明は当然として、鼻筋が通っている遺伝子群なのか、どんな体形の遺伝子群に属しているのか判るようになりました。さらに、自身が男性なら、同じ遺伝子で女性にうまれていたら、身長は高いか低いか、胸は大きいか小さいか、初潮は早いか遅いか、閉経は遅いか早い、肌の質はどうかがわかるようになっています。女優のアンジェリーナ・ジョリーは、乳がんの発症の確率が高いとし乳房を切除したのは有名な話です。

さらに進めると、どのような遺伝子を持つものが、足が長くなり、鼻筋が通り、肌の色が白く、あるいは黒くなるのか、ダンスに必要な筋肉、体形を持ち、音楽に芸術的に反応できるものはどのような遺伝子を持っているのか、研究が進み始めています。そして、その先の遺伝子組み換え技術は、今後、芸術系のスポーツに使われる可能性が指摘されています。

最後に

2020年東京オリンピックでは、追加種目に野球・ソフトボールが選ばれたことは、日本国民のポピュラーな種目が選ばれ何よりです。しかし、IOCからの注文は、世界トップレベルを参加させろとの注文がついています。トップとはアメリカのメジャーリーグベースボールです。今後、アンチ・ドーピングと、どのように対峙するのか、注目するところです。また、今回、バッシングを浴びたロシア陸上界の取り組みも同様です。

日本は、オリンピックにおいて、今まで一度もドーピング違反者を出していない国です。2020年東京オリンピック・パラリンピックが、もっともクリーンな大会であることを歴史に刻みたいものです。

WDSF世界ダンススポーツ選手権 ユース

World Championship Youth Standard 2016

2016年7月9日（土）～10日（日）

会場：北九州市立総合体育館
主催：公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）
共催：北九州市・北九州市教育委員会
協賛：公益財団法人西日本産業貿易コンベンション協会
後援：外務省・スポーツ庁・福岡県・福岡県教育委員会・公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）・公益財団法人日本体育協会

世界最高峰の競技会の一つであるWDSF世界ダンススポーツ選手権ユース（16歳から18歳、以下も可）は2002年に始まり第15回大会となり、我が国初の開催となります。JR小倉駅に直結する国際コンベンションゾーンの一角にあるリーガロイヤルホテル小倉において、野上宏哉実行委員長ご夫妻を中心に大会関係者によるウエルカムディナーが、鵜崎清隆JDSF国際本部長の司会進行で催されました。

WDSFChairperson（競技長）のWolfgang Eliasch 氏（オーストリア）は「最高の会場で最高の競技が開催される。日本の関係者に感謝申し上げる」と挨拶されました。

挨拶するWDSFChairpersonのWolfgang Eliasch 氏（オーストリア）

乾杯（左から鵜飼慶司WDSF理事、浅野勉JDSF／BD副本部長、山田淳JDSF専務理事夫妻、野上宏哉実行委員長）

7月9日（土）

オープニングセレモニー

12時30分、いよいよセレモニーの開始です。北九州市消防隊の演奏、北九州市立高等学校ダンス部の生徒が持つプラカードを先導に、各国選手の入場行進。熊本大地震の被災者に黙祷が捧げられ、会場入り口には義援金の箱も準備されました。世界的なオペラ歌手で北九州市文化大使を務める森野由みさんによる国歌独唱、そして北橋健治北九州市長は、歓迎の辞の後「世界ユース戦に18歳以下の若い選手を40か国から迎えました。北九州市始まって以来のことです。ダンススポーツはエレガントでチャーミング且つスピードと躍動に溢れるステップで多くの観客を魅了するすばらしいアスリートの大会です。北九州市には豊かな自然と世界文化遺産等多くの観光名所があります。友好と観光、選手と関係者の益々のご活躍とご発展を祈念します」と挨拶されました。続いて鵜飼慶司WDSF会長代行（WDSF理事）の開会宣言、選手宣誓とWDSF審判員の「公平かつ公明正大にジャッジします」と審判宣誓が行われました。

鵜飼慶司WDSF会長代行（WDSF理事）の開会宣言

審判宣誓　オーストリアのMichael Herdlitzka 審判員と日本の篠田美保審判員

選手宣誓する大西大晶（日本／ブルボンDST）とMichelle Yiu（アメリカ）

北九州市文化大使を務める森野由みさんによる国歌独唱

北橋健治北九州市長と鵜飼慶司WDSF会長代行、山田淳JDSF専務理事、仲野巽JDSF特任顧問

審判員

ガンバレニッポン！

北九州市消防隊の演奏

7月10日（日）

WDSFオープンユース選手権・ラテン

前日の世界ユース出場の大半の選手が、今日はラテンで出場です。ジュニア、ユースでは10ダンスを全て得意とする選手が多く、今日もフロアーでは大熱戦が繰り広げられました。若さ溢れる海外選手の思い切ったラテン特有のアクションも数多く見られました。

昨日スタンダードで準優勝したデニス グドフスキー・メギヤ ダナ モリテ組がパソドブレで全ての審判員から1位を獲得するなど実力の違いを見せつけ5種目で1位となり優勝。昨日も大健闘した藤井創太・吉川あみ組がジャイブ2位など各種目で頑張り、見事第3位に入賞しました。

選手宣誓をする藤井創太・吉川あみ組（日本／ブルボンDST）

優勝　デニス グドフスキー・メギヤ ダナ モリテ組
Denis Gudovsky／Megija Dana Morite（ラトビア）

準優勝　ミウ ユーゲン・サンドラ オヴァーバラ ペダーセン組
Miu Eugen／Sandra Overballe Pedersen（デンマーク）

・スタンダード2016

WDSF世界ダンススポーツ選手権 ユース・スタンダード

40の国と地域から出場するこの大会は、18歳以下で各国の予選を勝ち抜いた2組だけが出場できる競技。この世代の選手は数年後には各国のチャンピオンとなり、世界チャンピオンを目指してしのぎを削ることになります。第1次予選から、国内のダンス競技会とは異次元のようなフロアー上です。体育館としての音響は良く、ハイレベルのパフォーマンスの連続です。ワルツ、タンゴ、ヴェニーズワルツ、クイックステップでトップの得点を得たルーマニアのパウル レドニク・ロクサーナ ルカシウ組が優勝に輝きました。日本代表の大西大晶・大西咲菜組、藤井創大・吉川あみ組は、JDSFの選手強化育成やイタリア合宿の成果を発揮する絶好の機会となりました。2組とも実力を発揮し大健闘、日本選手が世界ユース史上で初めての最終予選ベスト24入りを果たし、場内を沸かせました。結果は21位と24位。決勝6組は優勝のルーマニアから6位のイタリアまで全て異なる国の選手で、ラトビアやベラルーシ等あまり馴染みのない国もダンススポーツは盛んで、決勝入りしました。この大会では、踊りを一層引き立てるドレスの丈は短め、ドレスと同じ素材で作られた帽子のような小さな髪飾りが目立ちました。

優勝
パウル レドニク・ロクサーナ ルカシウ組
Paul Rednic／Roxana Lucaciu（ルーマニア）

準優勝
デニス グドフスキー・メギヤ ダナ モリテ組
Denis Gudovsky／Megija Dana Morite（ラトビア）

第3位
ヤホー ボルディシュ・ポリーナ ミネーヴァ組
Yahor Boldysh／ Polina Mineeva（ベラルーシ）

第4位
パヴェル ザカレンコ・ダナ マカローヴァ組
Pavel Zakharenko／Dana Makarova（ロシア）

第5位
アンドレイ コバロフ・ベロニカ サモリテ組
Andrey Kovalev／Veronika Samuolyte（リトアニア）

第6位
アレッシオ フォルミサーノ・ジョバナッティ ジョイア組
Alessio Formisano／Giovanatti Gioia（イタリア）

最終予選（準々決勝）進出

第21位 大西大晶・大西咲菜組（日本／ブルボンDST）
「ホーム（日本）開催で時差も気にせず緊張しましたが、最初から体も軽く良く踊れました。成績は満足ではありません。もっと練習しないといけないと感じました！」

第24位
藤井創太・吉川あみ組（日本／ブルボンDST）
「何かが足りないような気がします。明日のラテンで頑張ります！」

準決勝進出

第9位　大西大晶・大西咲菜組（日本／ブルボンDST）

第10位（同点）渡邊安登・石垣真衣組（日本／ブルボンDST）

第3位
藤井創太・吉川あみ組
Sota Fujii／Ami Yoshikawa（日本／ブルボンDST）

第4位　グレン リチャード ボイス・カロリ ヤネス組
Glenn-Richard Boyce／Caroly Janes 組（英国）

第5位　トマー ツヴェニア トスキー・ヤナ リトヴィン組
Tomer Zveniatsky／Yana Litvin（イスラエル）

第6位　ナリマン アシェノヴァ・ダナ スマグロヴァ組
Nariman Ashenov／Dana Smagulova（カザフスタン）

優勝インタビュー

スタンダード部門

パウル レドニク・ロクサーナ ルカシウ組

「18歳と17歳です。組んで1年半。リーダーはエンジントラブルでロンドンに一度引き返したため会場に着いたのが競技の30分前、私は一人で入場行進して、競技前の練習も一人でしました。大変心細かったです！」

ラテン部門

デニス グドフスキー・メギヤ ダナ モリテ組

「17歳同士で、カップル歴2年。ダンスは10歳と7歳から始めました。好きな種目は10ダンス全部ですが、特に好きなのはジャイブ。オナーダンスもジャイブを踊りました。リーダーはモスクワのハイスクール、パートナーはラトビアのハイスクールなので、スロベニアで1か月に2週間カップルで練習しています。」

世界のレベルは高くなっています。選手を育成する体制の違いも影響していると思いますが、上位選手は特に運動能力とそのスキルが高く、また良くリハーサルされていました。

日本の選手も良く頑張っていましたが、筋力が世界レベルには達していないように見えました。インナーマッスルを鍛えて上半身と下半身をタイミング良く使い伸張性収縮や等尺性収縮の筋力を十分活用してダイナミックな動きができるようにテクニックや、リズム感や音楽的な表現を学ぶことが重要だと思います。

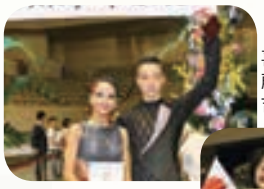
WDSFPD 国際審判員
篠田美保

ルーマニアの選手が優勝しました。３年前にルーマニアにWDSFの総会に出席した時、ルーマニアの選手たちの練習している様子をビデオ映像でみせてくれました。ルンバウォークやボタフォゴなどをたくさんの子供たちが練習していました。旧ソビエト連邦だった東欧諸国が独立したのは、約20年前でもっとも未だに政情の不安定な国もあるのですが、ルーマニアは1989年にチャウシェスク政権が革命により倒されるまでは、24年間に及び民衆はひどい圧政に苦しんでいましたが、隠し部屋などではダンスを踊りお互いに慰めたり勇気付けたりしていたそうです。民主化した現在ではレストランでも食事の後には音楽の演奏とともにダンスを楽しんでいました。そして革命の後には、ダンススポーツを取り入れ、現在では国の支援のもとに選手を育成していますので、その成果が素晴らしい選手を生み出しているのです。

場内を最も沸かせたグレン リチャード ボイス・カロリ ヤネス組

今大会で最も場内を沸かせた英国のボイス組は14歳と12歳のまだ子供のカップル。年齢的にはユースの下のジュニアの年齢で背も小さく顔もまだ幼いですが、スリムな体を精一杯使い、その動きは素早く鋭くフロアー一杯に踊り、客席の側でアピールするなど観客の目を引き付けました。ボイスの両親は英国を代表するスタンダード選手のウォレン&クリスティ・ボイスご夫妻で第3回東京オープン（2001年）と翌年も出場し大活躍しました。この日も控室前では両親付きっきりの指導効果でしょうか。ユースの選手に負けず劣らず見事オープンラテン4位入賞しました。

お父さんのウォレン・ボイスさんと一緒に



喜びの
藤井創太・
吉川あみ組

大西選手の地元富山から駆け付けました新井英里さん、八木綾子さん、大西陽来里さん

笑顔の役員▶

フェアウエルパーティ

フェアプレイ、ファイティングスピリッツ、その後はフレンドシップ、JDSF市原則之理事（元JOC副会長）がよく言われる言葉ですが、ベストを尽くし戦い終わって公益財団法人西日本産業貿易コンベンション協会の多くの協賛をいただき、フェアウエルパーティです。海外から国を代表して出場した多くの選手、応援のご家族、大会関係者の慰労も兼ねました。皆様、お疲れさまでした！

野上宏哉大会実行委員長ご夫妻

北九州市立総合体育館において日本初となるWDSF（世界ダンススポーツ連盟）公認、世界ダンススポーツ選手権ユース･スタンダード2016が開催された。世界40の国と地域から62組の選手、13名の海外審査員が参加し、2日間のべ7,000名の市民、関係者が集まり、世界のダンススポーツのレベルに驚嘆し、大いに楽しんだ。ユース･スタンダード部門ではルーマニア代表ポール&ロクサーヌ組、オープン･ユース･ラテン部門ではラトビアのデニス&メジージャ組が優勝した。ほかにも併催競技として、全日本オープン、九州ブロック･シニア戦なども行われ、九州、福岡を中心に全国から300組以上が参加し大会は大いに盛り上がり成功裏に終了した。今年4月に発生した熊本地震により、海外の選手、関係者からは開催を心配する声が多数あったが、その影響も少なく、予想を上回るエントリーを集めた。

またユース（18歳以下）の大会ということで市教育委員会の協力も得て、地元の小中高特別支援学校の生徒の皆様やその保護者の方々にはダンススポーツを通じた国際交流の一環として多数無料で招待し楽しんでいただいた。

海外から来日した、選手、役員300名程は平均4～5日間北九州に滞在し、大会期間中とその前後、北九州はじめ九州一円の観光も楽しまれ大いに満足して帰国の途に就いた。

「もう一度、北九州で会いましょう！」

キンタロー。組＆玲奈組がD級スタンダード優勝、準優勝

DSCJ D級戦 スタンダードには、学連出身のキンタロー。こと田中志保さんが元学連ラテンファイナリストの岸英明さんと出場、アナウンサーの山本匠晃さんと元アイドルグループ乃木坂46の市來玲奈さんがD級スタンダードで出場しました。大接戦の末、岸英明・田中志保組が優勝、コーチの三輪先生夫妻は「ベーシックを大事に、タンゴではラテンの経験を活かしタイミングの良いステップにした。良い踊りをと心掛けた結果です」とコメント。山本組のコーチ、山本武志・木島友美先生は「ルーティンに工夫をしました。悔しいけど悔いはありません」と話されました。競技会の様子は『中居正広の金曜日のスマイルたちへ』内で放送されました。

優勝
岸英明・田中志保組
（東京都）

準優勝
山本匠晃・市來玲奈組
（東京都）

★全日本オープン スタンダード

優勝　日比野湧・三喜穂菜美組（千葉県）（同ラテン準優勝）
準優勝 草場康司・草場利佳組（東京都）
第3位 大東哲平・大東にに組（神奈川県）
第4位 岡田浩・岡田素子組（熊本県）
第5位 徳野一也・下河邊衣津子組（福岡県）
第6位 金子孟史・杉原彩波組（ユースアスリートクラブ）
第7位 福本和雄・福本朋子組（福岡県）

★全日本オープン ラテン

優勝 名越慎悟・名越明子組（神奈川県）
準優勝 日比野湧・三喜穂菜美組（千葉県）
第3位 田代尚大・林田董組（福岡大学）
第4位 本田勇翔・藤吉真弥組（熊本県）
第5位 渋沢雄希・岩永希美組（福岡県）
第6位 金子孟史・杉原彩波組（ユースアスリートクラブ）

DSCJ B 級戦 スタンダード

DSCJ B 級戦 ラテン

後援頂いた株式会社味の兵四郎

「今回、日本での初開催のダンススポーツ選手権に協賛という形で、初めて応援させていただきましたが、若いユースのペア競技を目の当たりにし、今後のダンススポーツの発展が楽しみです。皆さん、けがに気をつけてこれからも頑張ってください！」（味の兵四郎HPより）

DSCJ C 級戦 スタンダード

DSCJ C 級戦 ラテン

野見山正秋社長とお姉さま
あごだしの試食風景▶

DSCJ D 級戦 スタンダード

DSCJ D 級戦 ラテン

頑張りました役員の皆様

藍沢寛一九州ブロック委員長
（副実行委員長、大分県DS連盟会長）

坂本省一熊本県
DS連盟会長

馬場隆長崎県
DS連盟会長

プレジュニア・スタンダード

プレジュニア・ラテン

吉原睦巳鹿児島県
DS連盟会長

司会の山口剛理事と北村和美さん、
甲斐章子さん、北川裕子さん

九州ブロック選手権 シニアⅢ スタンダード

九州ブロック選手権 シニアⅡ スタンダード

バス配車担当者

金永由利山口県
DS連盟会長

静岡市清水庵原小学校で「夢」を語る

セルミヤギナさんと

札幌国際大学大学院　スポーツ健康指導研究科　久保田弓椰

久保田弓椰選手は2010年中国広州で開催された第16回アジア競技大会にJOC（日本オリンピック委員会）から日本代表（チームジャパン）として派遣され銀メダルと銅メダルを獲得しました。世界ダンススポーツ連盟は、オリンピック種目を目指しています。

また、久保田選手は昨年の三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権ラテン部門で前人未到の8連覇達成しました。同時に妹の蘭羅さんとのカップルを解消し、ロシアのヴィクトリア・セルミヤギナさんと新しいカップルを結成しました。新カップルとして、昨年12月沖縄グランプリ準優勝、今年5月の全日本10ダンス優勝、7月の静岡グランプリと9月の仙台グランプリでは連続優勝と競技会で大活躍中です。また今年、札幌国際大学大学院に入学し、現在スポーツ指導学や身体の構造について勉強中です。

７月５日（火）静岡市立清水庵原小学校において、静岡市清水区の公益財団法人はごろも教育研究奨励会が取り組む「『夢』講演会」の一環として、全校児童464人を前に「夢を持つことの大切さ」について、私のこれまでの経験をもとにお話しさせていただきました。また、少しでもダンススポーツの魅力を知ってもらうために、ヴィクトリアにも協力してもらい、全児童の前でダンスも披露させていただきました。

私は６歳から妹の蘭羅とカップルを組み、ダンススポーツの競技会に出場しました。初めの頃は、顔も幼く、背も小さい兄妹が、ただ無我夢中で大人の中に混じって踊っていたという感じでした。その中から、私は「オリンピックで金メダルを取る」「世界一になる」という「夢」を持ちました。

昨年ダンススポーツ国内最高の大会「三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権」において、妹とのカップルで、史上初の８連覇を達成しました。でも、これに満足はしていません。私は自分の夢に向かって、新パートナーのヴィクトリアと競技を追い続けることにしました。

講演会では、このような私のダンススポーツでの夢や経過をお話ししながら、下記のようなことを子供たちに伝えました。

- 夢とは一番遠くてかなえるのが難しいこと。
- 夢に向かう途中には多くの困難があり、たくさんの努力が必要。
- 夢に向かう途中には多くの素晴らしい出会いや周りの人の応援があり、そこから多くのことを学ぶことができる。
- 練習を通して、競技を通して、その厳しさはスポーツの世界では当たり前。
- 夢は絶対にあきらめてはいけない
- 日本のみならず世界中で、素晴らしい選手や指導者との出会いがあり、その中で「世界一の選手を育てる」という新しい夢もできた。

その後、私の小さいころの競技会と昨年の三笠宮杯の映像を見てもらいました。最後に、全校生徒にチャチャチャのステップを指導して実際に踊ってもらい、チャチャチャ、サンバ、ジャイブの実演を見ていただきました。

今回の講演会で自分の夢を見つけ、それに向かって頑張っていく子供たちが少しでも出てきてくれたらとてもうれしいです。私の話をしっかりと最後までキラキラした目で聞いてくれた子供たちにたくさんのパワーをもらいました。そして、私のこれまでの競技生活などを理解いただき、このような機会を与えてくださった庵原小学校の片瀬校長とJDSFの溝口さんには感謝の気持ちでいっぱいです。自分にとっても、将来、指導者となっていく上で、子供たちの前で自分の気持ちをわかりやすく伝えることの大切さを学ぶことができました。

今後、大学院での勉強、ダンススポーツを通して思ったこと感じたこと、アスリートとしての経験など、機会があれば、皆さんに伝えていきたいです。特に、今回のような機会を活かして、国内ダンススポーツの発展のために、一般の方々にこの競技の素晴らしさも伝えていけたらと思っています。

そして、これからは自分の競技力アップに向けて、より一層の努力をしていくとともに、「世界一の選手を育てる」という新しい夢も追って行きたいと思います。

今後も、皆様の応援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

（7月24日のダンススポーツグランプリ in 静岡では、子供たちのメッセージを掲げ、片瀬校長が応援に来てくれました。子供たちから大きなパワーをいただき、ヴィクトリアとのカップルでグランプリラテン初優勝をすることができました。ありがとうございます。）

久保田弓椰

「ダンス世界一」夢語る
全日本連覇 久保田さん 清水庵原小で講演

静岡新聞（7月6日掲載）

WDSFシニアⅢスタンダード世界選手権に参加して

（7月10日・イタリア・リミニ市にて開催）

シニアⅢスタンダード世界選手権の開催地となったリミニ市は、長靴のふくらはぎに位置しています。アドリア海に面したリゾート地です。競技会場はリミニ・フィレーラという展示場で、リミニ駅前のホテルから車で15分ほどの距離にあります。人口15万人の小さな街ですが、幕張メッセのようなコンベンションセンターを運営しています。シーズンオフの時期にホテルの稼働率を高めるためのイベント施設なのでしょう。

幕張メッセのような会場で、５つのフロアに分かれ、１週間にわたり様々なダンスコンペが繰り広げられていました。カップルダンスが基本ですが、コンペ種目の多さは私達の想像をはるかに越えています。イタリア・ダンススポーツ連盟FIDSのウェブサイト（http://www.federdanza.it）を参照すると、スタンダード・ラテンアメリカン・カリビアン・アルゼンチンタンゴ・ジャズダンス・ストリート・ヒップホップ・カントリーダンスなどが、ダンススポーツという括りのなかで幅広く纏まっているのがわかります。WDSFやJDSFがめざしている組織団体の姿がここにはあると思いました。

チーズ工房を見学する玉木組と折笠・早川組

私達２組はモスクワを経由してイタリアのボローニャ市に入りました。ボローニャからリミニへは電車で１時間ちょっとの距離です。車窓から見えるタワーのようなものは、おそらく貯水槽なのでしょう。畑に水をまくスプリンクラーも見えます。乾燥の土地に育つのは、牧草とトマト、ぶどうとオリーブなのかもしれません。

シニアⅢスタンダード選手権には345組がエントリーしました。実際のエントリーは405組でしたが60組が欠場したらしい。観戦料は20ユーロですが出場料が無料とのことで、大会運営費をどのように捻出しているのか私には分からなかった。会場の中央に競技フロアが設営され、その奥が選手控え室となっています。印刷したプログラムは無かった。岡田組からLINEで頂いたタイムテーブルだけが頼りだった。１次予選はＢ級戦のような感じ、２次予選はＢ級とＡ級の間、３次予選は東北ブロックのＡ級戦のような感じでした。２次予選から20組、３次予選から更に20組のシード選手が加わったので、ラウンドを追うごとにスピード感が増してきます。

種目は１次予選から５種目のワルツ・タンゴ・ヴェニーズワルツ・スローフォックス・クイックステップと続きます。ヒート数が多いので曲の間には30分ほどの時間があります。１曲が１分45秒とのことで普段よりは長く感じます。私はヴェニーズワルツを踊り慣れていないので、ことさら長く感じました。２次予選までには１時間のランチブレークがあったのですが、玉木組と折笠・早川組のパートナーは２人ともベジタリアン（海鮮はOK）なので、お肉を挟んだパンは食べられないと言う。結局、菓子パンとコーヒーでしのぐ他はありませんでした。

玉木組と折笠・早川組はカロリー不足のせいか（笑）、３次予選で敗退してしまった。玉木組はあと何ポイントかで４次に進めたのだが、健闘を讃えたい。折笠・早川組はワルツで出遅れてしまった。大画面ディスプレイに次ヒートの背番号が表示されるのだが、その番号はシャッフルであり、その表示が遅かったり早かったりする。今現在、フロアで踊っているのが前のヒートなのか、自分のヒートなのか一瞬分からなくなってしまったのだ。

競技結果は会場内の薄暗い壁に、細かい文字で貼り出されるので、スマホのライトが無いと見えない。紛らわしいことに、落ちた組の番号と名前を掲示するので、うっかりすると自分たちが通過しなかったと誤解してしまう。おまけにジャッジペーパーは壁からはがれ、手から手へともみくちゃにされている。発表のたびに貼り出す場所が違うので、皆であっちこっちの大騒ぎ。トラブルとハプニングが人生のエッセンスという、イタリア人の気質がよくわかる。

ご一緒させていただいた、岡田組は４次予選に、石川組は５次予選に、そして今井組は７次準決勝に勝ち進んだ。８次決勝ラウンドが終了し、表彰式を終えた頃には午後11時を過ぎていた。朝の８時からスタートし、満足な食事も摂らずに、何とハードな一日であったことか。ホテルに戻り、皆さんとイタリアの地ビールで乾杯し、お互いの健闘を讃え合った。イタリアはワインのみならず、ビールもうまい。水がミネラル分を多く含む硬水のためだろうか。シャワーを浴び、眠りに就いたのは２時過ぎだった。

長い競技ダンス人生で一度くらいは海外の試合に出てみようよ、という軽い気持ちで申し込んだのですが、「日本代表」と言われたときには、「えっ、そうだったの？」と玉木組と一緒に覚悟を決めました。

そんなわけで、玉木組と折笠・早川組の２組は、観光と言う重大な使命も帯びていたわけです。ヴェネツィアで食べたシーフードは、大皿をお替わりするほどに美味しかったです。牧草からチーズとハムを作り、ぶどうはワインとバルサミコ酢となり、そしてオリーブはオイルに。世界中どこにでもある中華料理がイタリアの街には少ないことに気が付きます。それほどにイタリアンは美味しい。チーズ工房とバルサミコ酢の醸造元では、イタリアの食文化の奥深さを体感できました。

（福島県ダンススポーツ連盟　折笠正明）

ヴェネツィアでゴンドラに乗る（左端が筆者）

笑顔の日本選手団！

ダンス会場

第11回 オールジャパンジュニア ダンススポーツカップ 2016 in 群馬

2016年7月31日(日)／ALSOKぐんまアリーナ

特別協賛：株式会社ブルボン／スポーツ振興くじ助成事業

おいしさ、思いやり、いつもいっしょに。
ブルボン Since 1924

toto FOR ALL SPORTS OF JAPAN

選手宣誓をする
金井大輝・甘利このみ組
（群馬県）

2006年静岡で開催された第１回大会より「ジュニア層の拡大」、「ダンススポーツへの導入」、「トップアスリート養成」を基本方針として取り組んできた本大会も第11回を迎え、群馬県前橋市の郊外に敷地面積219千平方メートルを誇るALSOKぐんま総合スポーツセンターのメイン体育館であるALSOKぐんまアリーナで開催されました。開会式には群馬県のゆるキャラ“ぐんまちゃん”も登場し子供たちの注目を浴びました。溝口稔ジュニア育成部長は「JDSFは念願である国体参加を目指している。実現の場合は、少年A（高２高３）、少年B（中３高１）、成年の３区分となり若い世代が中心となる。そのためにも、本大会は初心者からトップアスリートまで幅広い選手が出場する大会にまで成長したが、さらに全国各地でジュニア層を増やす必要がある。」と挨拶で強調されました。地元群馬県の金井大輝・甘利このみ組が、元気よく選手宣誓を行い競技に入りました。

溝口稔ジュニア
育成部長

堀口三夫群馬県
DS連盟会長

松村晃市副実行委員長
（チェアパーソン）

ベストマナーカップル賞に輝いた
石垣和宏・中村安里組
（ブルボンDST/千葉県）

★ユース戦

この大会はジュニア・ユース競技区分が共に世界選手権代表選考会となっており、注目のユース戦では昨年も激戦を演じた藤井組、大西組、渡辺組に、ジュニアチャンピオン五月女組、濱田組、さらに選手宣誓をしたジュニア強化指定選手の地元の金井組の６組がハイレベルのデッドヒートを繰り広げました。決勝は、スタンダード部門、ラテン部門共に、全く同じ顔ぶれ（選手）となりましたが、藤井創太・吉川あみ組（ブルボンDST/千葉県）がスタンダード、ラテン共に連覇を果たしました。

スタンダード優勝
藤井創太・吉川あみ組
（ブルボンDST/千葉県）（同ラテン優勝）

スタンダード準優勝
大西大晶・大西咲菜組
（ブルボンDST/富山県）（同ラテン3位）

ラテン準優勝
渡辺安登・石垣真衣組
（ブルボンDST/千葉県）（同スタンダード3位）

スタンダード部門表彰式

優勝	藤井創太・吉川あみ組（ブルボンDST/千葉県）
準優勝	大西大晶・大西咲菜組（ブルボンDST/富山県）
第3位	渡辺安登・石垣真衣組（ブルボンDST/千葉県）
第4位	金井大輝・甘利このみ組（群馬県）
第5位	濱田琉衣・稲村百香組（ブルボンDST/栃木県）
第6位	五月女光政・五月女睿佳組（栃木県）

ラテン部門表彰式

優勝	藤井創太・吉川あみ組（ブルボンDST/千葉県）
準優勝	渡辺安登・石垣真衣組（ブルボンDST/千葉県）
第3位	大西大晶・大西咲菜組（ブルボンDST/富山県）
第4位	金井大輝・甘利このみ組（群馬県）
第5位	五月女光政・五月女睿佳組（栃木県）
第6位	濱田琉衣・稲村百香組（ブルボンDST/栃木県）

★ジュニア戦（世界選手権代表選考会、年内に12～15歳、男女いずれかが11歳以下出場可）

ユースに引き続き最後の競技となったジュニア決勝では、ユースでも決勝進出を果たした濱田琉衣・稲村百香組（ブルボンDST/栃木県）、五月女光政・五月女睿佳組（栃木県）が再度ファイナルに登場し、勢い勝る五月女組が、スタンダード、ラテン共に勝利しました。

スタンダード部門表彰式

スタンダード優勝
五月女光政・五月女睿佳組（栃木県）
（同ラテン優勝）

スタンダード準優勝
濱田琉衣・稲村百香組
（ブルボンDST/栃木県）（同ラテン3位）

スタンダード第5位
松浦龍騎・松浦優莉華組（宮城県）
（同ラテン6位）

スタンダード第6位
渡邉俊介・和田澪奈組（千葉県）

スタンダード第7位
長谷川悠・安達あん珠組（富山県）

ラテン第4位　太田歩生･太田なごみ組（北海道）（同スタンダード4位）

ラテン第5位　泰永圭吾・小倉里桜組（群馬県）

ラテン準優勝　石垣和宏・中村安里組
（千葉県）（同スタンダード3位）

ラテン部門表彰式

★フリーダンスチーム対抗戦

リズム体操の部門の名称で親しまれていたチーム対抗の団体戦は、昨年からフリーダンスチーム対抗戦となり13チームが出場しました。富山県のハッピー HAPPYクローバーが優勝に輝き、ベストマナーチームには、ひたちなか市ジュニアDSクラブ（茨城県）が選ばれました。

昨年から行われた一人で踊るソロ（シャドウ）競技（中高生と小学生の部、各スタンダードとラテン）は今年も実施されました。

優勝　ハッピー HAPPYクローバー（富山県）

準優勝　レインボースマイルとやま（富山県）

第３位　ジュニアDSクラブせんだい（宮城県）

D.T.Sジュニア相模原 てるて（神奈川県）

M, D, J（長野県）

ひたちなか市ジュニアDSクラブ（茨城県）

からっ風の子 Aチーム（群馬県）

fly to the future・佐久（長野県）

D.T.Sジュニア相模原 若あゆ（神奈川県）

からっ風の子 Bチーム（群馬県）

横浜中央キッズクラブ（神奈川県）

スマイル　ジュニア（新潟県）

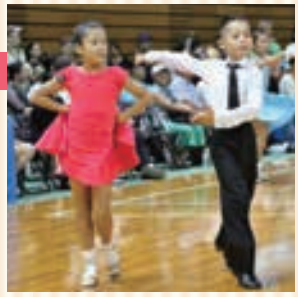
ジュネス（東京都）

ジュブナイル（年内に11歳以下）スタンダード表彰式

スタンダード・ラテン優勝
久保力也・大西陽来里組(富山県)

スタンダード準優勝
木下将希・山岡愛生組(千葉県)

ジュブナイル（同）ラテン表彰式


ラテン準優勝
濱田琉成・昕 桜組(栃木県)

ソロ競技風景

女子高校生　スタンダード表彰式

女子高校生　ラテン表彰式

女子中学生　スタンダード表彰式

女子中学生　ラテン表彰式

小学生4～6年　スタンダード表彰式

小学生4～6年　ラテン表彰式

小学生1～3年　スタンダード表彰式

小学生1～3年　ラテン（メレンゲ・サルサ）表彰式

女子高校生
スタンダード・ラテン優勝
松田彩音・松村舞凪組（富山県）

女子中学生
スタンダード・ラテン優勝
堀　真・松村愛花組（富山県）

小学生4～6年
スタンダード・ラテン優勝
山本壮真・三喜真梨菜組（愛知県）

ソロ競技　小学生以下女子の部
スタンダード・ラテン優勝
馬谷真利亜（神奈川県）

★ジュニア指導員・審判員コングレス（研修会）

研修風景（前半）

大会の前日の7月30日（土）、前橋市総合福祉会館多目的ホールで開催されました。群馬県、富山県の子供たち約30名も参加し楽しい講習会となりました。第1部は、ジュニア育成部の村田公代さん、水本慶子さんによるサルサ、メレンゲの講習があり、第2部は「世界のリズムで遊ぼう」と題して田島正浩氏とパーカッションの関弘太氏（打楽器演奏家・キューバでの国際コンクール優勝）による講習が行われました。田島氏は幼少の頃より、タップダンス、ジャズダンス、ボールルームダンスなどの洋舞系から阿波踊り、日本舞踊、よさこいなどの日本の踊りまで様々なダンス・舞踊を研究、また、プロで活躍する齋藤愛さんと組み、全日本ジュニアチャンピオンになった経験もあり、（公社）日本女子体育連盟特別会員として現在は筑波大学大学院などでも講座を持たれています。

田島正浩氏とパーカッションの関弘太氏

夢中で動く子供たち

音と音の間も打楽器を使って自由に体で表現させてみると、子供たちも音と体が繋がり満面の笑みで体をダイナミックに動かす！「いいね、いいね」の連発に、子供たちはますますイキイキ！講習のはじめとは打って変わった表情になって、無我夢中になってもう一流ダンサー。チャチャチャ、ルンバ、クイックステップで最後は走る走る、自分の体に感じた音楽で見違える表現、動きができるようになりました。第3部はジュニア指導員部員も加わり、会員拡大についてグループデスカッションが行われました。

2016年7月3日（日）
ホテルイースト21東京

Asian World DanceSport Festival 2016開催
WDSFオープンダンススポーツ選手権
WDSF-PDオープンダンススポーツ
併催 WDSFユース10ダンス世界選手権派遣日本

JPDSA（日本プロフェッショナルダンススポーツ協会）主催の“Asian World DanceSport Festival 2016”が、昨年に引き続き「ホテルイースト21東京」において盛大に開催されました。鵜飼慶司WDSF（世界ダンススポーツ連盟）理事は「WDSFは世界のプロダンス選手の大会としてPD部門を設けている。本日は世界のトップ選手の参加もあり豪華な大会となった」また、田邊重光大会名誉会長（JDSF副会長PD本部長）は「JDSFは日体協正式加盟をはたし国体参加の道を進むべきと考えている」と話されました。そして北村良一JPDSA会長は「本年度よりJPBDA（日本プロフェッショナルダンサーズ協会）からJPDSAに名称変更した。決意を新たにJDSFと共にダンススポーツの振興に努めていきたい」と挨拶をされました。
今回は三笠宮杯8連覇を果たした石原蘭羅（旧姓久保田）さんのレポートです。

蘭羅です！
ダンススポーツの普及と発展の為に、
日々努力しています。
よろしく、お願いします。

WDSFオープンダンススポーツ選手権大会

スタンダード部門 ヨーロッパ選手の出場がなく、日本選手のライバルは香港№1のLiu Kai Sam Sum組と韓国Suan Suk組となりました。香港のLiu組は20歳前後の若手兄妹カップルで、ジュニア･ユース時代から香港代表で各選手権に出場し、着実にステップアップしてきた選手です。個人的にはこの日の踊りを見て、ヨーロッパ勢と競い合えるかという見方をした場合には、Liu組と久保田組の踊りが目に入ってきました。
ラテン･スタンダード問わず日本の若手カップルは、国内では小嶋組や久保田組と競い合い、アジア圏･ヨーロッパ圏にどんどんチャレンジしていくことで、世界に通用する選手になって欲しい。また、日本のどのカップルもこの日の成績に一喜一憂せず、自分たちの目指す踊りに向かって、それぞれが信頼･尊敬するコーチと一緒に頑張って行って欲しいです。

ラテン部門 イタリアからの2カップルに加えて、ウクライナとシンガポールの国際カップルでWDSFグランドスラムでもトップ24入りしているKostiantyn Samarskyi組、韓国のトップカップルGi Nam Yong組が出場し、ハイレベルな競技となりました。その中で第3位だった日本の久保田組は、新カップル結成以降、国内外で豊富なトレーニングとレッスンをこなしてきており、技術･パワー･スピード･スタミナともに、それに見合うレベルの高い踊りができていたと思います。また、多くの国際大会を経験しているため、ジャッジに見てもらえるフロアクラフトやコリオグラフィの構成ができています。結果は第3位でしたが、優勝も感じさせる出来映えでした。そして彼等のダンススポーツに対する取り組み姿勢から考えても、今後まだまだ踊りが進化していくと思います。ラテン部門の若手日本カップルの中では、第6位の八谷組と準決勝の藤井組が、久保田組に追いつく力を感じさせる内容でした。

優　勝　小嶋みなと･盛田めぐみ組（日本／神奈川県）
準優勝　藤井　創太･吉川　あみ組（日本／ブルボンDST）
（同ラテン準決勝進出／ユース10ダンス優勝）
第３位　大西　大晶･大西　咲菜組（日本／ブルボンDST）

優　勝　Kevin Baccanale･Darya Palishchuk組（イタリア）
準優勝　Kostiantyn Samarskyi･Isabelle Tay組（シンガポール）
第３位　久保田弓椰･セルミヤギナ ヴィクトリア組（日本／北海道）
（同スタンダード第４位）
ファイナル　八谷　和樹･皆川　円組（日本／千葉県）

大会
選手権大会
代表選考会

北村良一大会会長
（JPDSA会長）

田邊重光大会名誉会長
（JDSF副会長PD本部長）

鵜飼慶司WDSF理事
（JDSF特任顧問）

WDSF－PDオープンダンススポーツ選手権大会

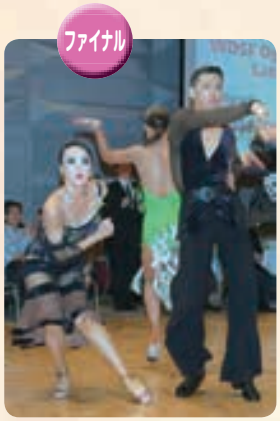
ラテン部門は、優勝したMarts Smalka組の力が頭一つ抜き出ていて、予想通りの優勝となりました。彼等はアマチュアの世界セミファイナルから昨年ターンプロし、PDの世界選手権でいきなり第8位に入っています。第2位のHing Wai Chan組は、私が現役時代にオリンピック系の大会やWDSFの各選手権で代表選手として何度も戦ってきたカップルです。長年培ったパートナーシップと豊富な練習量を感じさせるパフォーマンスで、ターンプロ初戦でヨーロッパ勢を抑えてアジア勢最高の第2位となりました。

スタンダード部門は、現在の世界トップ3のBnedetto・Ferruggia組、Emanuel・Valeri組、Donatas・Vezelis組が出場し、最高の盛り上がりを見せました。このレベルまで来ると、正確な技術の上にそれぞれの個性がしっかりと表現されていて、競技結果とは別に観客の皆さんもそれぞれ好みの踊りがあったのではないでしょうか。また、ターンプロ初戦で見事に決勝入りした日本のオレクシー組については、「決勝に入る」という本人たちの強い意志が体全体から出ていたと思います。これまでもオレクシー組はしっかりと二人の目標を定めて、それをクリアして次のステップに進んできたカップルだと思っていましたが、この日もそのことを感じました。プロフェッショナル10ダンスチャンピオンの山本武志・木嶋友美組も、素晴らしい踊りを見せてくれました。この二組にはこれからのJDSF-PD部門を引っ張って行って欲しいです。

最後になりますが、デモンストレーションではなく競技会の場で世界トップ3の激突を見られたことは、お客様はもちろん日本のプロ・アマチュア選手にとって、とても貴重なことだったはずです。国内でこのようなWDSF競技会をよりたくさん開催し、同じフロアで海外選手と戦う経験を増やしていくことが、プロ・アマ問わず日本選手の成長につながり、そこで日本選手と海外強豪選手の全力の戦いをお見せすることで、多くの方々に、ダンススポーツの魅力をより一層感じていただけるのではないかと思います。

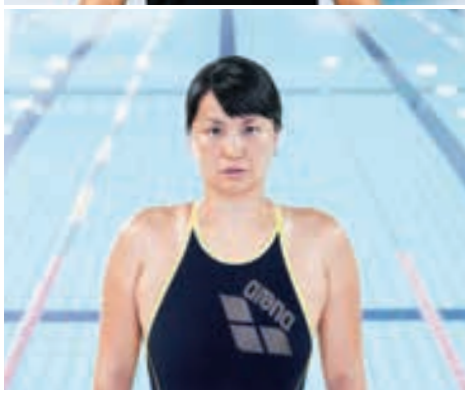
優　勝　Benedetto Ferruggia ・Claudia Koehler組（ドイツ）
準優勝　Emanuel Valeri・Tania Kehlet組（デンマーク）
第３位　Donatas Vezelis・Lina Chatkeviciute組（リトアニア）
初ファイナル　オレクシー グザー・太田吏圭子組（日本）

優　勝　Marts Smolko・Tina Bazykina組（ラトビア）
準優勝　Hing Wai Chan・Lai Ki Tin組（香港）
第３位　Nicola Nelli・Eleonora Rugi組（イタリア）



WDSFユース10ダンス世界選手権派遣日本代表選考会表彰式

優　勝　藤井　創太・吉川　あみ組（ブルボンDST／千葉県）
準優勝　渡辺　安登・石垣　真衣組（ブルボンDST／千葉県）
第３位　金井　大樹・甘利このみ組（ジュニアDSC伊勢崎／群馬県）



前を向け。未来たち。

追いかけて来い。追い抜いて行け。
若い君たちの可能性こそが未来だ。

スポーツくじ

toto　BIG ビッグ

スポーツは育てることができる。

スポーツくじ（toto・BIG）の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

www.toto-growing.com ⊘19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

ダンス・ダンス・ダンス
第81号（AUTUMN）
平成28年10月発行

■発行人／山田　淳（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事）
■編集長／神宮周二（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部）
■企　画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
■発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階　TEL.03-6457-1850　FAX.03-6457-1857
http://www.jdsf.or.jp

ⓒ本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。